

● 能登臨海実習

- ◇日 時 7月23日(月)～7月25日(水)
- ◇場 所 金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設(石川県鳳珠郡能登町)
のと海洋ふれあいセンター(石川県鳳珠郡能登町)
ホテルのときんぶら(石川県鳳珠郡能登町)
- ◇参加者 1年探究科学科生徒 40名(男子23名、女子17名)
- ◇指導者 金沢大学日本海域環境研究センター臨海実験施設 教授 鈴木信雄 先生
能登里海教育研究所 博士研究員 浦田慎 先生
金沢大学 環日本海域環境研究センター臨海実験施設 小木曾正造 先生
又多政博 先生
- 金沢大学大学院自然科学研究科 M1 座主彩香 さん
金沢大学 理工学域 4年 村田まどか さん
本校教職員 5名

実習の概要

臨海実習の3日間に、鈴木先生による講義を聴き、磯採集、分類実習、課題研究と発表、イカの解剖実習、乗船実習などを行いました。鈴木先生は、実習1日目に「生物の分類について」、3日目に「食品の化学」という題で講義をしてくださいました。

初日の磯採集では、のと海洋ふれあいセンターの海岸で海に入り、様々な磯の動物を見つけて採集を行いました。その後、臨海実験施設に移動して、班ごとに採集した動物をよく観察し、分類しました。夕方からは動物の観察結果をもとに、疑問に思ったことをテーマとして課題研究を行い、最終日に模造紙やsurfaceを用いて、生徒や先生の前で発表しました。

研究の合い間に、1日目の夜は集魚灯による海の観察、2日目の午前は小型船に乗って九十九湾の海水の透明度の測定やプランクトンなどの採集をする乗船実習、午後はイカを解剖し内臓の様子を観察したりスケッチをしたりする実習もしました。プランクトンネットでの採集では、この地域ではたいへん珍しいカメガイもたくさんとれました。また早朝には宿舎付近の海岸でアカテガニの観察も行いました。

この実習で身に着けた観察力や課題探究の方法を、今後の探究活動に生かしていきたいと思います。



生徒の声

- ・磯採集の時、海岸から近い場所でも、ウニやヒトデなど多くの生物がいることに驚いた。
- ・乗船実習での透明度の測定や、プランクトン採集では、新たに知ることが多かった。
- ・多くの海洋生物を観察し、自分たちでテーマを決めたが、課題研究をするなかで、自分たちの思うとおりに行かず、何度も試行錯誤したので、課題研究は難しいと感じた。でもそれがいい経験になった。
- ・実験での生物の反応が面白かった。
- ・初めは生物とのふれあいに苦戦したが、細かいところまで観察して、最後には生物を好きになることができ、とても貴重な体験をさせていただいたと思う。

